令和7年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業
実施計画書（継続団体用）

活動団体の本事業での活動テーマ
『 100年後からみて歴史が変わった社会実験を』

活動団体の活動地域：奈良市
活動団体名　　：奈良コクリ！実行委員会
中間支援主体名　　：一般社団法人TOMOSU

参加団体の基本情報

（１）活動団体の基本情報

団体名	奈良コクリ！実行委員会
活動地域	奈良県

専門性・強み
#プロジェクトマネジメント　#共創する仕組みづくり　#クリエイティブ #多様なセクター

団体概要
奈良県内でセクターを超えた共創を生みだし、新しい地域をつくっていくために、奈良コクリ！プロジェクトを推進している。 ＜事業の概要＞ ●コクリ！キャンプ：深く内面を見つめ、根っこでつながる体験により、「種火」を生み出す企画 ●コクリ！ラウンジ：キャンプで生まれた「種火」を育て、活動や事業を進めていくための企画

（２）中間支援主体の基本情報

団体名	一般社団法人TOMOSU
活動地域	奈良県

専門性・強み
#創業支援　#コワーキング　#地域プロジェクト　#まちづくり

団体概要
【ビジョン】ひととまちが共振する未来を創る 【ミッション】こころに火をともす　まちを「らしさ」で彩る 【バリュー】誠実である、寛容である、質にこだわる、 冒険心をもつ、全体性を持つ ＜事業の概要＞ ●奈良市創業支援施設BONCHIの運営 （コワーキングスペース、シェアオフィス、会議室等の運営） ●創業相談や創業セミナーの実施、創業機運醸成事業の企画 ●地域における共創プロジェクトの創出

活動団体と地域の紹介

地域コミュニティ

仲間

奈良コクリ！プロジェクト

コクリ!
co-cree!

キャンプ

ラウンジ

事業の種

ローカルSDGs事業

事業A

事業B

事業C

仲間

産官学金の多用なセクターから、奈良コクリ！に共感する仲間を集める。

メンバー同士がつながりながら、事業や活動の素となる「種火」を生み出していく。

具体化した事業や活動を推進しながら、事業毎にさらに仲間を募っていく。

活動団体の目指す地域の姿

■地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

「土」とつながり　→自然・地域・循環
「人」がまざりあい　→世代・領域・内と外
古くて新しい奈良をつくる　→古い歴史をあたため新しい歴史をつくる

■地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

奈良コクリ！プロジェクトという産官学金の多様なセクターに属する人が集い、関係性を深めながら、自身や地域の思いに気づき、事業や活動の種を共に創り出す仕組みを構築している。原則、招待制で運営しているため、熱量の高い人が集まっている。

奈良コクリ！プロジェクトから生まれてきたプロジェクト「まちごこち作戦会議」は、まちに関するテーマを話し合うオープンなプラットフォームとして機能している。

■ローカルSDGs事業として取り組む内容

- 春日山原始林の活動を支える事業・組織づくり
- コミュニティコンポスト事業
- コミュニティファンドの設立
- 次世代アントレプレナー育成

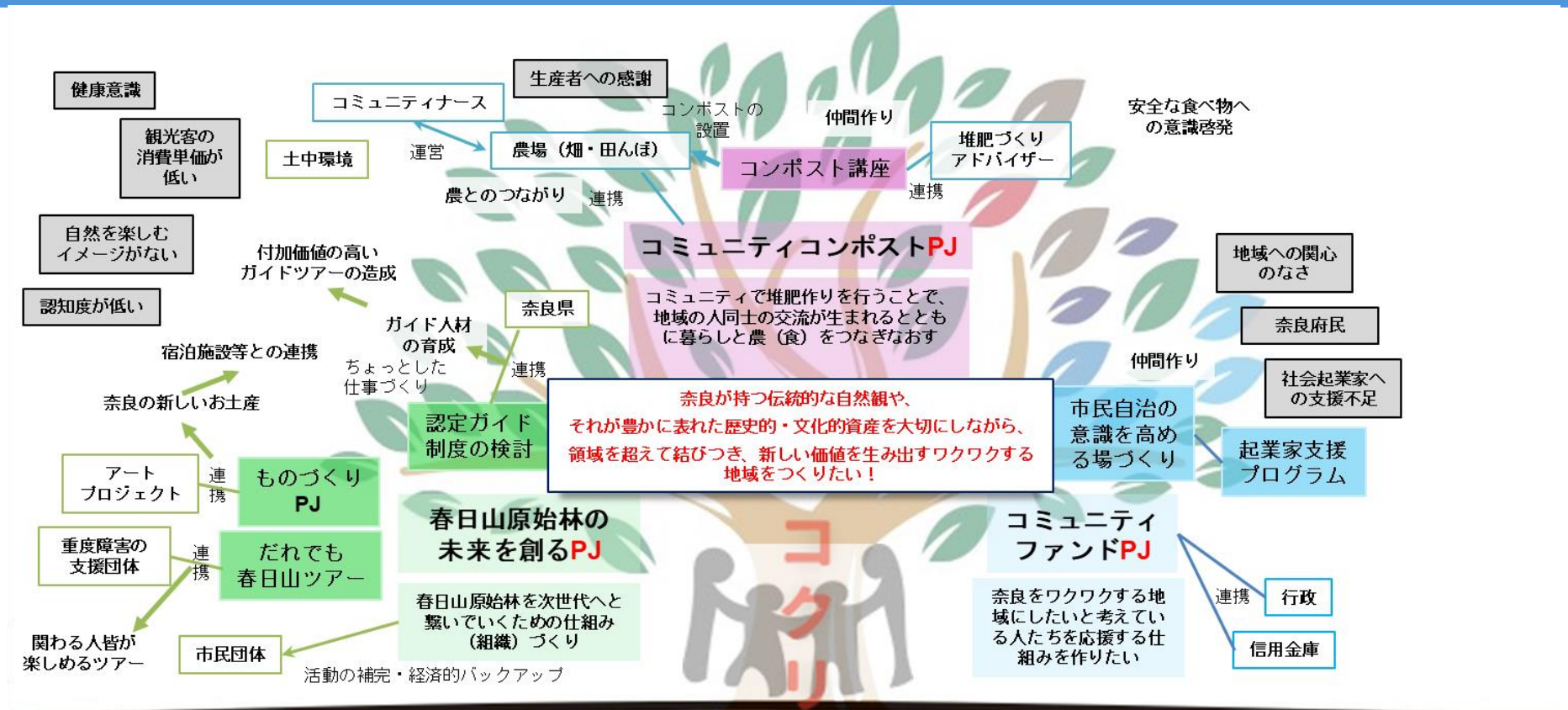
＋α

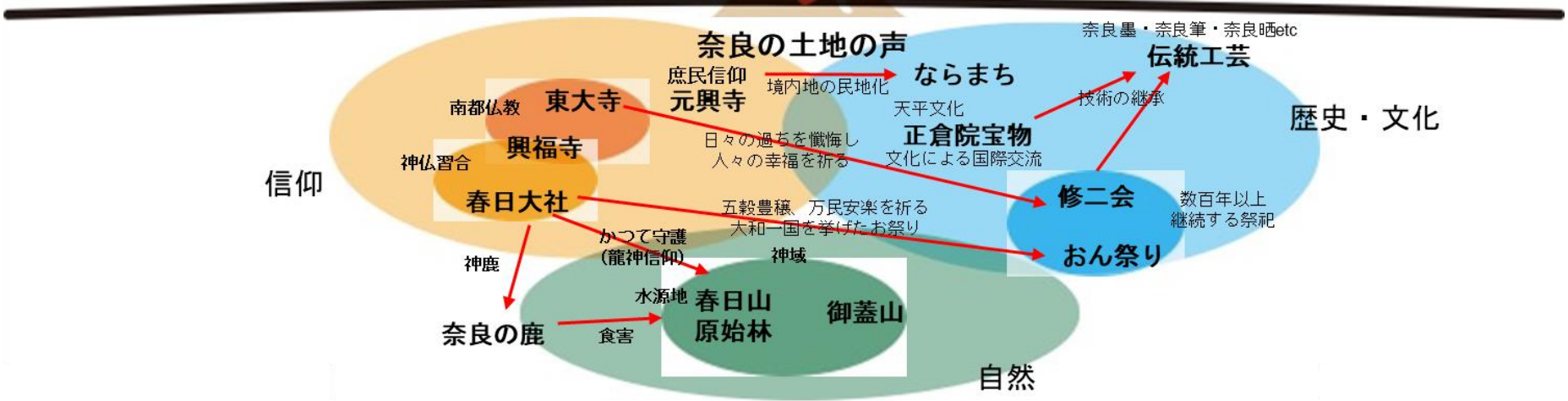
■地域の現状と課題

■奈良市の資源
・歴史的・文化的資源、自然資源が豊富で身近
・過去5年連続で人口は社会増

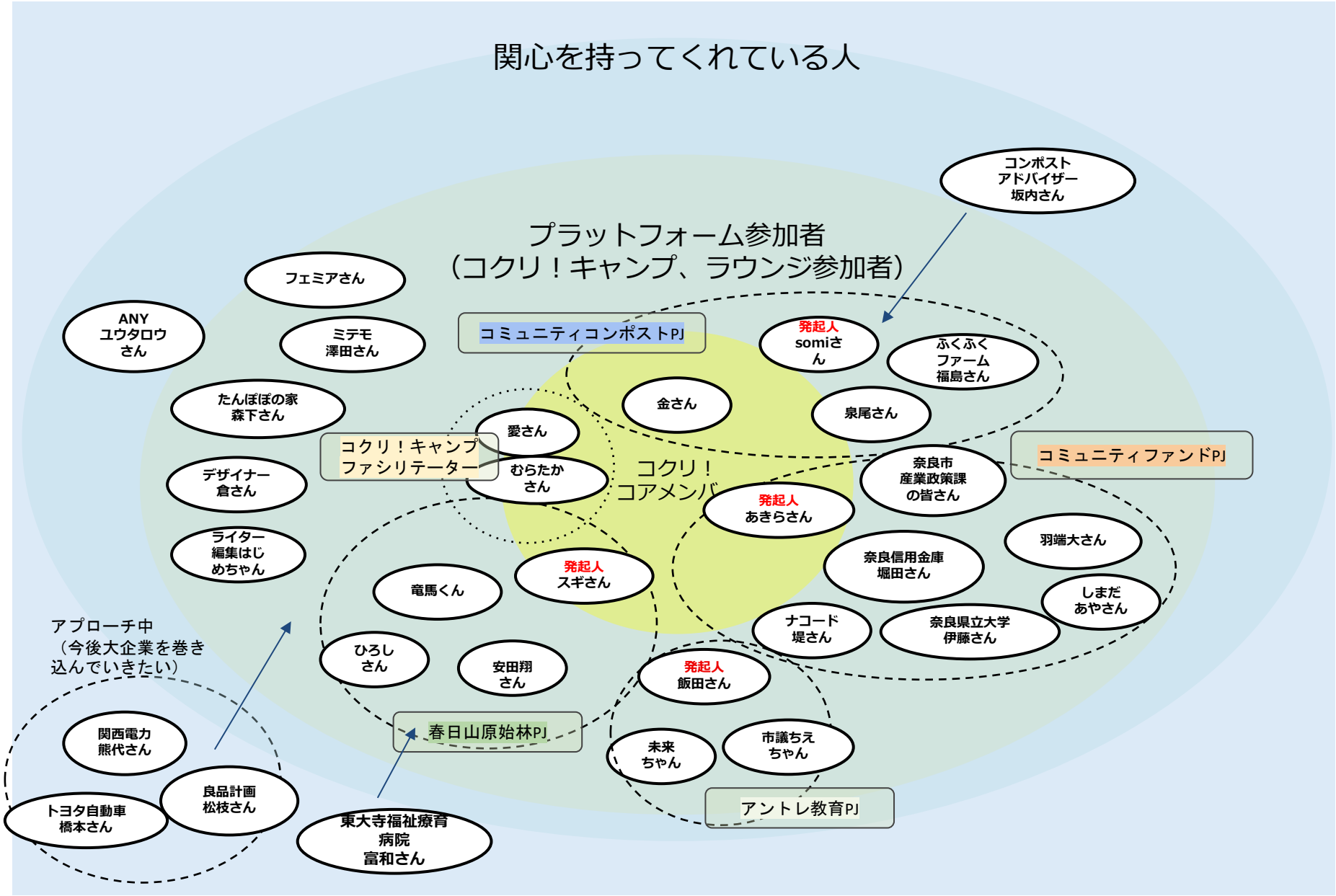
■奈良市の課題
・観光客の滞在時間が短く、物見遊山的観光
・一人当たり観光消費額は全国ワーストクラス
・県外就業率が全国トップクラス
・女性就業率全国ワーストクラス

現時点のマンダラ


健康意識
観光客の消費単価が低い
土中環境
自然を楽しむイメージがない
認知度が低い
コミュニティナース
運営
生産者への感謝
農場（畑・田んぼ）
農とのつながり
連携
コンポストの設置
仲間作り
コンポスト講座
堆肥づくりアドバイザー
連携
安全な食べ物への意識啓発
コミュニティコンポストPJ
コミュニティで堆肥作りを行うことで、地域の人同士の交流が生まれるとともに暮らしと農（食）をつなぎなおす
付加価値の高いガイドツアーの造成
奈良県
ガイド人材の育成
ちょっとした仕事づくり
連携
宿泊施設等との連携
奈良の新しいお土産
認定ガイド制度の検討
奈良が持つ伝統的な自然観や、
それが豊かに表れた歴史的・文化的資産を大切にしながら、
領域を超えて結びつき、新しい価値を生み出すワクワクする地域をつくりたい！
地域への関心のなさ
奈良府民
仲間作り
社会起業家への支援不足
市民自治の意識を高める場づくり
起業家支援プログラム
アートプロジェクト
連携
ものづくりPJ
重度障害の支援団体
連携
だれでも春日山ツアー
関わる人皆が楽しめるツアー
春日山原始林の未来を創るPJ
春日山原始林を次世代へと繋いでいくための仕組み（組織）づくり
市民団体
活動の補完・経済的バックアップ
コミュニティファンドPJ
奈良をワクワクする地域にしたいと考えている人たちを応援する仕組みを作りたい
連携
行政
信用金庫


奈良の土地の声
信仰
歴史・文化
自然
南都仏教
東大寺
興福寺
神仏習合
春日大社
庶民信仰
元興寺
境内地の民地化
ならまち
天平文化
正倉院宝物
文化による国際交流
日々の過ちを懺悔し
人々の幸福を祈る
奈良墨・奈良筆・奈良晒etc
伝統工芸
技術の継承
修二会
数百年以上継続する祭祀
おん祭り
五穀豊穣、万民安楽を祈る
大和一国を挙げたお祭り
かつて守護（龍神信仰）
神域
神鹿
奈良の鹿
食害
水源地
春日山原始林
御蓋山

“地域プラットフォーム”のイメージ



ローカルSDGｓ事業の詳細

事業名称１：コミュニティコンポスト事業		
あらすじ		
地域の人たちが共同で利用できるコミュニティコンポストを導入して、地域内にある生ごみを堆肥化するとともに、小さな循環をともにつくる安心したコミュニティづくりを行う。堆肥は地域の人や生産者のもとで再利用され、食材が地域に還元される。		
ストーリー		
どこの家庭からも出る生ごみを資源としたコンポストで堆肥を作り、その堆肥を活用した野菜作りの活動を通して、自然の営みに自らも関わる経験ができると考えている。私たちは森や川や海や動物と共に自然の中に存在しているということ、食べることや捨てることが暮らしている場所の環境と繋がっているのだという意識や実感が自然と芽生え、日々の選択が少しでも変わることを期待している。人は自然に触れること、同じ場所に集まり時間を重ねていく事で安心が生まれると考えていて、そんな安心したコミュニティを作りたい。そうしたコミュニティができることで、辛い思いを抱えている人が少しでも減ってほしい。そしてそのコミュニティが地域の各地に広がっていくことで、ごみの排出削減にもつながっていく。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	「ちいさな循環とつながりの中に安心が芽生えていく」 そんなコミュニティを地域に増やしていきたい	・コミュニティを運営していくための経済循環システムをどのように作っていくか。共同利用者からサブスク形式で運営費を徴収するのか、講座を内製化して収益化するのか出来た堆肥を販売して稼ぐのか。堆肥の販売となると、行政側との調整が必要になる。 ・コミュニティコンポストの設置場所を増やしていく際に、協力してくれるところがどれだけあるか。
②課題	・持続的な運営ができる経済循環システムづくり ・コミュニティコンポストの設置場所探し	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	孤独を感じる人を一人でも減らすため。環境などへの意識が少しずつでも変わっていくため。	
④地域資源	各家庭から出る生ごみ、地域にある畑・遊休地、コンポストをやりたいと思う人	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	コンポストの1次処理は各家庭でできるように床材バッグを使用、2次処理はコミュニティコンポストまで持参し、協働して堆肥を作る。一連の内容を学ぶ講座がサービスの一つだが、堆肥の販売やコミュニティ運営に関するサービスの提供方法は今後検討。	
⑥担い手（Who）	コンポストに興味ある人、土地所有者、農家	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	地域の生ごみが堆肥へ　⇒　堆肥が地域の生産者のもとで活用されて野菜が育つ　⇒　地域で販売されたり給食に活用されたりする	・コンポストアドバイザー ・行政（ごみ関連部署） ・地域にある大学や農家（広いスペースを保有しているところ）
⑧事業で生じる成果	・行政主導ではなく、個人主導でのごみ削減や環境意識の向上につながる ・コミュニティの仲間が増えて、孤独に悩む人が減少する	

３カ年状態目標

■2026年度末の状態目標

・奈良コクリ！プロジェクトWEBサイト構築（情報発信）
・コミュニティファンド設立
・新たなローカルSDGs事業が発足（6つ目）

■2025年度末の状態目標

・春日山原始林の新組織発足
・コミュニティコンポストPJの新たな拠点ができる
・コミュニティファンド設立準備委員会発足
・新たなローカルSDGs事業が発足（5つ目）
・新たなローカルSDGs事業の発足するためのサポート体制ができている

■2024年度末の状態目標と振り返り

【状態目標】
・実行委員会の組織化
・ローカルSDGs事業（春日山原始林の新組織発足）

【振り返り】
・実行委員会は、DAO（自律分散型組織）的な組織を志向していることが判明
・春日山原始林の新組織発足は来年度にシフトしたが、着実に進んでいる
・新たなローカルSDGs事業が発足（次世代アントレプレナー育成PJ）

中間支援主体のありたい姿

■中間支援主体としての獲得目標

活動団体自身が共創を生み出すグループなので、「膝詰めの対話」や「信頼の構築」といった「協働のプロセス」におけるプロセス支援については中間支援主体としても力を入れて取り組んできたところである。一方で同じカテゴリにあるものの、「プロセスへのコミットメント」や「中間の成果」に関しては、十分に機能しきれなかったと認識している。活動団体の主体性を損なわないようにしながらも、プロジェクトの進捗を確認しながらプロセスへのコミットを促していけるようにしたい。
また、各個人に生まれた事業や活動のタネを収益化するサポート力をより獲得していきたい。社会的事業や地域を元気にする活動は、単体での収益化が難しい場合もあるため、様々な収益化ノウハウを身に着け、その機能を発揮したい。

■中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

本事業において獲得していきたい中間支援機能としては大きく2つある。
一つは、主体的に社会的事業や地域を元気にする活動が生まれてくるような共創的関係性の構築支援機能
二つ目は、生まれてきた活動のタネが事業として持続していくための収益化、仕組化支援機能

上記2つの中間支援機能が向上すれば、奈良市周辺において様々な活動が生まれてくるだろう。そうした活動・事業が増えることにとって、市内在住女性の活躍につながるし、さらに県外からの移住者の増加にも貢献できる。
そうした事例が増えてきた将来的には、政策提言など、これまでできなかったアプローチによって、より地域づくりに貢献していきたい。

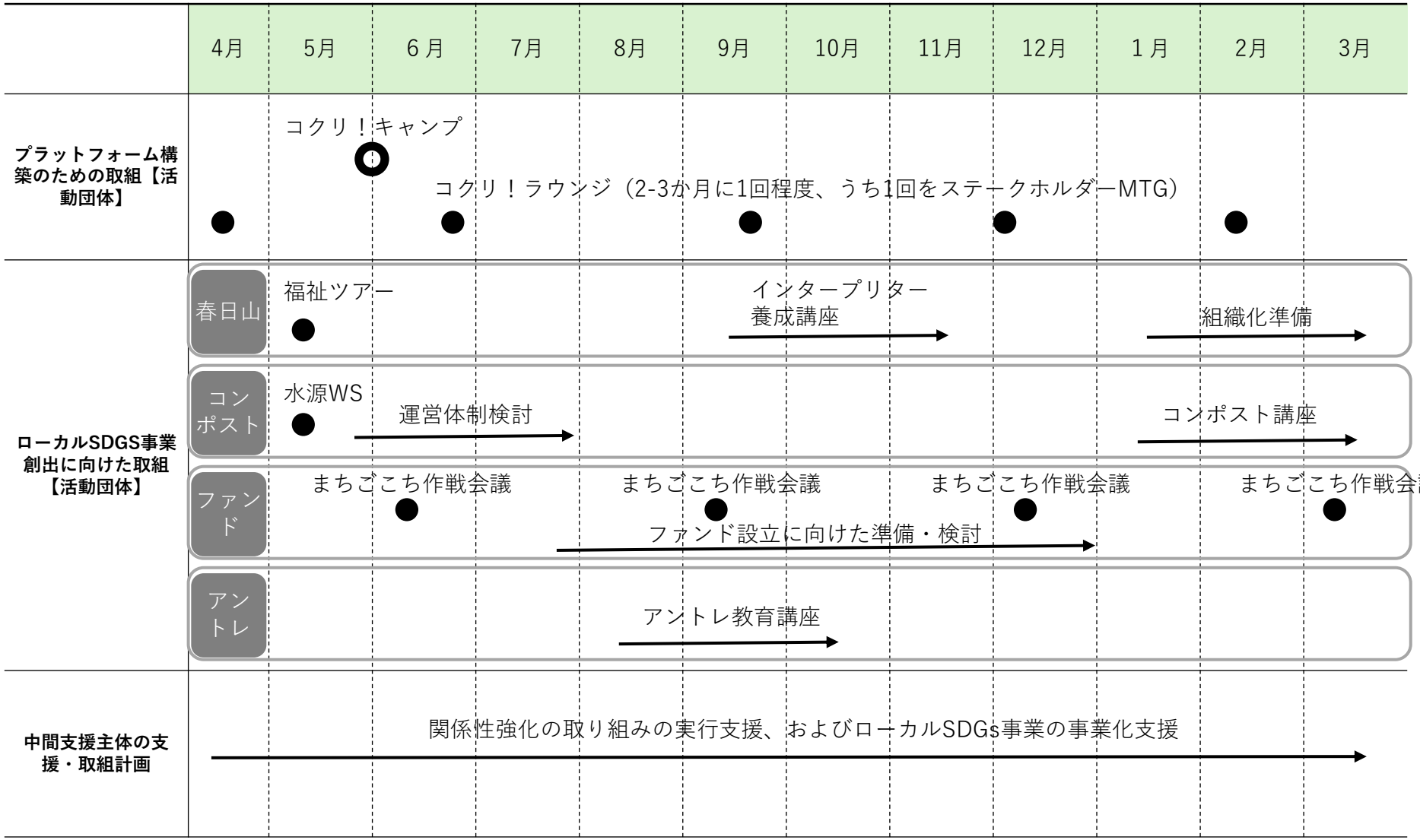
中間支援主体の支援・取組計画

■中間支援主体の1年間の支援目標

活動団体である奈良コクリ！実行委員会が、今後新たに生まれてくるプロジェクト（ローカルSDGs事業）をサポートできる状態を目指す。具体的には、新たにプロジェクトが生まれてくるような共創のための場づくりや、新しいプロジェクトが生まれたときのルール作り、ステークホルダーとの適切なマッチング、生まれてきた活動・事業の持続可能性を高めるビジネスモデルづくりなど幅広い知見が必要になる。

■支援計画

	活動団体の取組における現状と課題（見立て）	課題を解決するために必要と考える手段（打ち手）
①	プロジェクトによって進捗具合にバラツキがある。進捗が芳しくないプロジェクトに関して関与度を高めて、プロセスを支援することが必要	プロジェクトマネジメントが可能な人材を当該プロジェクト内に配置する。 毎月の定例会議で丁寧に進捗確認を行う。
②	本事業終了後における継続的な事業の仕組みがまだ確立できていない。最終年度である来年度末を目途に体制を構築することが必要。	活動団体が様々な手段でプロセス支援ができるように、知識を習得する。 ・ビジネスモデル構築 ・補助金、助成金、寄付等融資に限らない資金調達手法 ・広報、SNS活用　など
③	新たにプロジェクトを興したいという人がいた場合、奈良コクリ！のプロジェクトとしていくか否かの判断基準やルール設定が曖昧である。	基準やルールの設定・公開

活動・支援スケジュール

■スケジュール